

第4回生駒市総合計画審議会（第三部会）会議録

開催日時 令和5年10月16日（月）10時～12時20分

開催場所 生駒市役所4階 401・402会議室

出席者

（委員）高取部会長、大谷委員、松山委員、藤尾委員、上山委員

（事務局）小林市長公室長、坂谷市長公室次長、牧井企画政策課課長補佐、
桐谷企画政策課企画係員

（担当課）（福祉健康部）上野福祉政策課長、上野福祉政策課主幹、
平田障がい福祉課長、岩崎障がい福祉課課長補佐、西田生活支援課長、
伊藤生活支援課主幹、後藤地域包括ケア推進課長、
秋永地域包括ケア推進課主幹、齊藤地域共生サミット推進室長
吉本介護保険課長、殿水介護保険課課長補佐、水澤地域医療課長、
天野地域医療課課長補佐

（教育子ども部）山本教育総務課長、桐坂教育総務課課長補佐、
松本学校給食センター所長、花山教育指導課長、

中田教育指導課課長補佐、日高教育政策室長、松田教育政策室主幹

（事業者）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 島崎主任研究員

議事内容

1 各論の素案について

【事務局】（開会宣言、配布資料確認、出席者紹介、各課から概要説明）

以下、発言要旨

基本的施策4 学校教育

【高取部会長】（1）主体的に学ぶ人の育成について、ご意見等あるか。

【松山委員】 様々な主体との取組を行っていることはよく分かった。今後、どのように広げていくのか。

【教育指導課】 主なものとしては、奈良先端科学技術大学院大学との連携がある。キャリア教育では、市のキャリア教育プランナーが、それぞれの学校の先生方とつながり、先生たちの思いを聞き取りながら、様々な人とつながる取組を進めているところである。

【松山委員】 奈良先端大においても、地域と密接に連携したいという考えを持っている。せっかく市内にある大学なので、これらからも連携を進めるようお願いしたい。

【大谷委員】 ②の保幼小連携については、今後、一層重要になる。学校や園といった全体の連携も大事だが、よりきめ細かに、個々の子どもたちの情報を共有する仕組みが大切だと考えている。

生駒は私立園も多いので、それぞれ個別にフォローできる仕組みがあると望ましい。

【教育指導課】 夏休み期間中に、就学前の相談会を実施し、入学前の個別の相談を行っている。もちろん、この5日間以外にも随時相談を受けて、入学に関する不安解消に取り組んでいる。

【松山委員】 ③地域とともにある学校づくりを進める、と記載されており、小学校では進んでいる印象を受けているが、中学校がこれからだと思っている。

【教育指導課】 小学校は、そもそもの風土として地域や保護者の方が学校に入る機会がある。中学校と地域の関わり方としては、中学生が地域に出ていくことが良いのではないかと考えている。

今夏に学校を開放する取組を行った。学校を活動の場として使ってもらいながら、子どもたちが学べる取組を行った。

【高取部会長】 (2) 主体的に学べる教育環境づくりについて、ご意見等あるか。

【大谷委員】 体育館にエアコンは設置されているか。災害時には、体育館が避難所にもなるので、防災関連の部署と連携して、設置を検討されたい。

【教育総務課】 エアコンの設置が必要だとの認識はあり、検討中である。全小中学校に設置をするには、15～20億円程度が必要になる見込みなので、国等の補助金の情報収集や、設置のタイミングを検討する等進めている。

【大谷委員】 できる限り早急な設置が必要だと思う。ここに、明記できるか。

【教育政策室】 現在、教育大綱を並行して作成している。総合計画と教育大綱の記載内容について調整をしている。具体的な事業については、アクションプランで記載していくことになる想定している。

【高取部会長】 体育の授業中に熱中症で亡くなるというニュースも頻発していると感じる。後手に回らないように取組を進めていただきたい。

【松山委員】 電子モニター等、年数が経っているので更新が必要だと思っている。更新についても計画的に進めていただきたいがどう考えているか。

【教育総務課】 平成29年に導入したので、耐用年数には問題なく、故障には順次対応している。今後、一斉に更新時期を迎えるにあたって、計画的に進める。

【松山委員】 タブレットを用いた授業を見学したことがある。使い方について工夫の余地があると思うので、今後も使用方法等検討を進められたい。

【上山委員】 一人の保護者として、周囲の不登校の子どもへのサポートの難しさを感じている。繊細な内容でもあり、どこまで踏み込んでいいのか、自分に何ができるのか迷うことがある。市の取組とはどのようなものか。

【教育指導課】 地域の方が、どの程度不登校のケースに関わるかはデリケートな問題で難しい。不登校になっているお子さんは、心のエネルギーがなくなっている状態。エネルギーがたまり、外に出てこられるようになった時に少しサポートされるのが良いのではないか。

本市ではいきいきほっとルーム等の居場所づくりに取り組んでおり、

今後は学校内にも居場所を作っていきたいと考えている。そういった場所の支援員として関わっていただくということも考えられる。

【松山委員】 地域福祉にも近い内容なので、学校と福祉の部署の連携が必要だと思う。民生委員としても、見守り方法等も悩んでいる。

【大谷委員】 松山委員がおっしゃる点は、コミュニティスクールがカバーできると思う。コミュニティスクールでは、委員に地域の方や福祉関係の方がおられ、校長先生も一緒に取り組むことになるので、地域のサポートするすそ野としてフォローする体制はできているのではないか。校区としてどのように対応していくかということであり、学校ではできないが民生委員は対応できる等、それぞれの特徴を活かし、学校運営協議会で地域の課題を捉えて、対応方法を考えると良い。学校内のホットルーム等も、地域学校運営協議会を活用することでうまく進むのではないか。分けて考えていく事ではなくて、一人の子どもに様々な人が関わる事が大切だと思う。

【松山委員】 団体に属している人は関わり方が大体分かるが、個々の市民はどう関わっていけば良いのか分からないと思う。フォローする体制が必要だと思う。

【高取部会長】 市民や事業者ができることの主な取組イメージ1点目「どの子どもに対しても」という表現は、少し強い印象を受ける。一般的に市民が、どの子どもに対しても積極的にと思えるかどうか。違和感があると感じたので最考されたい。

【藤尾委員】 学校給食センターを訪問した時、衛生面等を考えると、仕方がないと思うが、現場は非常に大変であり、ピリピリした雰囲気だと感じた。子どもたちにとっては、給食センターの職員を見ることで、食の大切さや教育にもつながっていくと思う。給食を美味しく食べている子どもは、学校生活も楽しく過ごしているのではないかと思う。コロナ禍では食に関することを伝えることが難しい状況であった。それでも、食べることの楽しさや郷土料理などの取組をPRできると良いのではと感じた。

【松山委員】 地元の食材は、どのようなものを使用しているのか。

【学校給食センター】 市内農家から、大根や玉ねぎ、白菜等、できる限り協力を得ながら進めている。

【松山委員】 契約農家等の制度はできないか。農業で安定して生活できるということになると、企業や若年者の参画も進むのではないか。

【学校給食センター】 学校給食には膨大な量の野菜が必要である。一定量を供給いただける農家は限られるが、今後も検討していく。

【松山委員】 地元とは、市内だけではなく、県内という考え方でもいいと思う。市内の農家は高齢化が進んでいて、大規模生産は難しい。若い人が後を継いでも安定した経営が成り立つように、学校給食で地元野菜を多く消費する等、担当課と連携して進めていただけたらと思う。

【高取部会長】 施策名についても、審議対象に入っている。事務局から説明をお願いする。

【事務局】 9月15日の生駒市議会総合計画特別委員会において、不登校の増加等で、子どもたちの学びの形態が多様化している中、施策名として「学校教育」とすると、学びの場が学校に限られ、狭い印象を受けるとのご意見があり、学校と教育を分けることを意図し、間に「・」を入れることで、提案をしたい。

【大谷委員】 学校とは、小学校や中学校の義務教育ということになるのか。

【教育総務課】 市の管轄としてはおっしゃるとおりである。

【高取部会長】 施策シートを見て、フリースクール等についても、教育として捉えていく方針だと理解した。学校と教育の並列で、問題ないのではないか。

- 【松山委員】 フリースクールは、今後どのようにどう捉えていくことになるのか。
- 【教育指導課】 今後も、連携していく必要がある。特にコロナ禍以降、不登校は増加傾向である。子どもたちにとって、どこかに居場所があって、人とつながることができる場所が大切である。人とつながれない子どもにどう対処していくかが課題である。
- 【藤尾委員】 学校教育の間に、「・」を入れるだけで思いが伝わるのか、微妙だと感じる。「・」を入れた意味合いが市民に伝わるよう、施策の方向性等で表現を検討いただきたい。
- 【松山委員】 今回は、「学校・教育」として、内容については今後の検討課題で良いと思う。
- 【大谷委員】 「・」が入ることで、なぜ、という意識が芽生える。進めていく中で、文言が合わなければ検討しても良いのではないか。子どもたちに関わっている人は、意識を持っているので、意味付けとして良いのではないか。
- 【藤尾委員】 市民レベルでは「・」の意味は分からない。どこかの部分で読みとればよいと思う。
- 時代の流れとともに、子どもも保護者も変わってきており、関わる事が怖いとも感じることもある。個人情報だと言われれば、関わることもできない。子どものためと思っても、逆効果になることもあり、関わり方が難しい。
- 【高取部会長】 文言や中身との整合性を図ることが必要で、例えば、②に「学校生活等」と「等」を付けており、フリースクールが含まれているという解釈だと思う。藤尾委員の意見を受け、表現方法は再度検討されたい。
- 【大谷委員】 フリースクールという文言を入れると限定的になるので「居場所」等の表記はどうか。
- 【高取部会長】 多様性の尊重とフリースクールも異なる話だと思う。様々な要因で、

いわゆる学校教育になじめない人の受け皿について記載できればと思う。

基本的施策5 高齢者支援・障がい者支援

【高取部会長】 (1) 持続可能な福祉・医療サービス提供体制の構築について、ACPやBCPといった専門用語は注釈が必要であり、言葉のみ書くのか、概念も併せて書くか、市民が見て分かるように文章化することが必要だと思う。

【地域医療課】 文章での表現を考えている。

【高取部会長】 ACPは終末期のイメージだが、「普及」という文言で良いか。推進等の言葉の方が適しているのではないか。

【地域医療課】 コロナ禍を経て、全国的に在宅医療のニーズが増える傾向にあった。医療と介護のネットワーク協議会の在宅医療部会において、高齢化が進み、医療や介護の人材が不足する中で、看取りの場所が病院だけではないという状況も見据える必要がある。人生の最後の迎え方には、様々な選択肢があるということを知ってもらうため、「普及」という言葉を使用している。エンディングノート等、自分の親世代のことについて考えていただけるよう、若い世代に周知したい。

【高取部会長】 考え方の普及と理解した。同じようにBCPについても馴染みのないことだと思うので、丁寧な記載をお願いしたい。

【高取部会長】 (2) 高齢者支援の充実について、アセスメントという言葉は評価等の表現に変更してはどうか。

【松山委員】 認知症サポーター養成講座の受講生は、その後どのようなサポートを行っていくのか。

【地域包括ケア】 認知症サポーター養成講座は、認知症への理解を深めてもらうための

【 推 進 課 】 ものである。積極的に何かのサポートをする者ではない。もちろん、意識が高い方には、活躍の場として認知症支え隊への登録の案内をしている。

【 松 山 委 員 】 せっかく貴重な時間を使って受講されているのだから、市民への波及効果も考えて、受講者の活躍につなげてほしい。

行政が発信するよりも市民による発信、口コミ等の方が、効果が期待できるので、引き続き取り組んでほしい。

【 大 谷 委 員 】 小中学校でも、認知症への理解について実施していると思うが、波及効果が見込めると思う。

【 松 山 委 員 】 子どもは理解が早い。こうした取組を続けることが必要であり、教育の一環として実施できれば良いと思う。

【 高 取 部 会 長 】 (3) 障がい者支援の充実について、ご意見等あるか。

【 松 山 委 員 】 市役所での障がい者の雇用状況はいかがか。

【 障 がい 福 祉 課 】 令和5年度で、2.8%である。地方公共団体の法定雇用率は、2.6%なので+0.2ポイントとなっている。

【 松 山 委 員 】 市内の民間企業の雇用状況は分からないのか。

【 障 がい 福 祉 課 】 労働局でデータを集約しており、詳細情報の把握は難しい。市として、企業に対する障がい者理解の促進や雇用に対する普及啓発は大切だと考えている。障がいがある人への理解促進は、今後、企業向けに行っていくよう検討している。

【 松 山 委 員 】 先日、大阪にある企業の取組を視察した。従業員の9割が障がいがある人であり、様々な種類の障がいを持った人が働いており、行政も協力して取組を進めている。こうした事例も参考にしながら、民間企業と連携して、障がい者が働きやすい環境整備を進めていただきたい。

【高取部会長】 (4) 権利擁護の推進について、ご意見等あるか。

【各委員】 意見なし。

基本的施策6 地域福祉

【高取部会長】 (1) 寄り添った支援体制の構築・拡充について、「8050問題」や「ヤングケアラー」等、新しい言葉や概念には注釈を付けていただきたい。

【松山委員】 地域でヤングケアラーの実態把握は難しい。登下校時の見守りだけでは、分からないところがある。学校の先生が一番分かると思うので、市として把握し、対応していく必要があると思っている。

【事務局】 ヤングケアラーである本人も、自分自身の状況が社会に助けてもらえることだと分かる必要がある。現在、テレビCMを流す等、国も取組を進めており、生駒市でも先生への研修も行っている。学校で把握し、福祉サービスにより解決につながる場合は、重層的支援体制を活かして対応に当たっている。これまでもケースごとに対応してきたが、体制が整い、より支援につながりやすい状況になってきている。

【松山委員】 ヤングケアラーの状態が、当たり前の生活の一部と感じている子どももいる中で、意識を変えることが難しい。まずは、現状を把握していく事が大切であると思う。

【高取部会長】 (2) 地域における支え合い・社会参加の促進について、今年度、地域共生社会推進全国サミットのプレイベントがあり、来年本番を迎える。これらのイベントが起爆剤になるという記述になっているが、どういった影響が出ると考えているのか。

【地域包括ケア推進課】 地域共生社会推進全国サミットを実施したからといって、それだけで機運が高まるということではなく、サミットの成功に向けて、地域の方や事業所を巻き込み、みんなで話し合っていていく。そのプロセスの

中で、意識を醸成していくということを考えている。

【松山委員】 サミットに向けて、今までの事業に横串を刺していくことが必要である。サミットが終点ではなく、サミットを契機にして取組を進めてほしい。

【高取部会長】 サミットに向けたプロセスが機運醸成になると理解した。

【藤尾委員】 地域で活動している団体が高齢化してきたこともあり、団体同士が手をつなぐ必要も出てきた。サミットは団体同士をつなぐ良いチャンスになるのではないかと期待している。

【大谷委員】 地域で活動している既存の団体を緩くつないでいくことが大切。その後も、行政だけが取組を進めていくのではなく、それぞれの団体に実施してもらえらることを振り分けることも大切である。

【藤尾委員】 ひまわりの集いにおいても、認知症支え隊の方々が活躍している。参加者を迎えに行き、一緒にバス等に乗って会場まで連れてきてくれる。黙々とボランティアをしておられ、頭が下がる思いである。支え手となるボランティアも高齢化してきているので、継続に向けたモチベーションにつながることを、例えば広報で活動を紹介していただく等も検討していただきたい。ボランティア等、支える活動をしている人の現状を知って、数年先を見据えた対応を検討されたい。

【松山委員】 高齢者が相談できる相談先を一覧にして、情報の発信を強化していただきたい。同時に、相談先を知らない人が多いので、知ってもらう取組が必要。本当に困っている人、声を上げられない人へのアプローチが必要である。

【藤尾委員】 地域包括支援センター等を知らない人もおり、必要ないと思っている人も多い。自治会役員は知っているが、それ以外の人は知らないことが多い。当事者である高齢者でも知らず、必要性を感じていないのかもしれないが、自ら知ろう、情報を得ようという住民の努力不足もあるのか

もしれない。

【高取部会長】 ボランティア等の様々な活動に対して、スポットライトを当てるといったことが大事だと思う。

【高取部会長】 (3) 安心して暮らせる環境づくりについて、「困難な状況にある方」という表現が唐突感を感じたので検討いただきたい。

【大谷委員】 高齢者の移動支援の取組について検討すべきではないかと感じている。コミュニティバスの拡充や、より狭い範囲、学校区程度を電動カートで周回して、買い物等の支援を行う等が考えられる。重たい荷物を持つことができず困っている高齢者も多く、地域で行動手段が確保されれば、免許返納等にもつながる。高齢者だけではなく、障がい者や小さな子どもがおられる人の利便性にもつながる。

【事務局】 施策12で検討している。移動しやすいまちを掲げて取り組んでいるので、担当課と共有する。

【高取部会長】 移動支援等は民業との関係性があり、行政がきっちりまとめようとするほどハードルが高くなる側面がある。善意の取組は良いが、行政の枠にはめると難しくなると感じている。

市民や事業者ができることの主な取組のイメージについて、ご意見等あるか。

【各委員】 意見なし

【高取部会長】 めざす状態について、ご意見等あるか。

【各委員】 意見なし

【事務局】 (庶務連絡、閉会宣告)

— 了 —